

# 野沢温泉村への学生派遣プログラム 2017

## テーマ 野沢温泉物語 ～新商品の実現に向けた提案～

野沢温泉村では、2013年度から野沢温泉村のきれいで豊かな水をベースにした商品を開発し、「野沢温泉物語」ブランド商品として村内外に発信している。現在はお米やお酒、肌水や石けんなどの6商品が認定されている。

昨年度の本プログラムでは、「野沢温泉物語の新商品提案」をテーマとして、新商品の発案から「野沢温泉物語」の広報に関することまで、様々な視点からの提案を行った。

今年度は、昨年度からの継続テーマとして、新規の参加者に加え、昨年度の経験者（以下、「学内サポートチーム」とする）もプログラムに携わった。新旧一体となり、前回の提案を深化、あるいは、新たな観点から考えることで、より具体的な新商品の提案と、さらには、「野沢温泉物語」ブランド自体の発展や村全体の活性化に向けた提案など、より多角的な観点からの提言を目指した。

## 2016年度の成果報告会 (2016年10月31日)

野沢温泉村役場で行われた成果報告会には、関係者のほか、地域住民の参加も多数あり、学生の提案を村全体で考える機会となった。発表内容は、村のきれいな水を活かした「水まんじゅう」や「フルーツかき氷」、村に古くから根付く食材をつかった「飲む！野沢菜」などの商品提案のほか、それらのPR戦略についても提言があり、「野沢温泉物語」についての総合的な提案がなされた。（提案内容の詳細は、2016年度の実施報告書を参照）

閉会に際し、萩原正敏副村長は「村内で生活していると気づかない野沢温泉村の新たな個性が見えた。本日の提案を実現に向けて検討していきたい。」と述べ、学生の提案が、今後の「野沢温泉物語」の展開に影響を与える成果報告会となった。



4か月間プログラムに取り組んできた成果を発表する2016年度の参加者たち



発表後、会場から多くの質問がありました



萩原副村長から講評を頂戴しました



2016年度プログラムを終えて

## 《2017年度のプログラムスタート》

### 東京・明治大学での事前学習

#### 派遣学生への事前説明会及びグループワーク（6月9日）

今年度のプログラムに参加する学生が初めて一堂に会しての第1回ガイダンス。当日は、野沢温泉村から担当職員を招いたほか、学内サポートチームの出席もあった。冒頭で、昨年度の提案紹介および野沢温泉村からのフィードバックを行い、提案内容と課題について情報共有をはかった。

また、「このプログラムに期待すること」をテーマとしたグループワークを行い、6月に控えた事前調査に向けて参加者のモチベーションを高める機会とした。



参加者の自己紹介



2016年度の提案について  
村役場からのフィードバック



はじめてのグループワーク

### 事前調査

6月17日から18日に、野沢温泉村での事前調査を実施。まずは村の魅力を楽しみ、東京に戻ってからのグループワークの材料を集めることを目的として実施した。

#### ヒアリングと村内視察（6月17日）

明治大学駿河台キャンパスからバスで出発した一行は、昼過ぎに野沢温泉村役場へ到着。さっそく、観光協会の森事務局長と株式会社野沢温泉の片桐社長から、村の観光の取り組みについての工夫やスキー場を活かした夏の観光産業などについて話を聴くことができた。その後は、全員で村内の視察を行い、開業前のスキー場ジップスカイライドやスキー博物館、温泉施設スパリーナなどを見学した。

夜は、宿でグループワークを実施。村役場担当職員にも参加いただき、実際に村を訪問した感想や気づいたことなどをふりかえり、翌日のグループ行動の計画を立てた。



片桐社長との懇談会の様子



開業前のジップスカイライドを視察



宿でのグループワークの様子

#### 村内視察（6月18日）

この日は、早朝から「野沢温泉朝市」を視察。早い時間にも関わらず多くの人で賑わっていた。その後は、グループ行動となり、まずは観光客目線で村を歩き、観光産業の現状把握や新たな気づきを得るための視察を行った。各グループ、大湯通りの散策や外湯めぐりなどを主として、見晴台やキャンプ場まで足をのびたグループもあった。それらを通じて、村の文化や魅力を満喫し、提案に活かせる材料を見つけられたほか、「野沢温泉物語」の各商店での取り扱われ方などについても気づきを得ることができた。





大湯通りの朝市を視察



調査の感想や気づきをまとめるグループワーク



事前調査を終えての記念撮影

## 東京・明治大学での研修

### 学内研修①「ほんとうに『地域』のためになる提案をするための学習」(7月8日)

この研修では、木村乃 商学部特任准教授を招き、提案をする上で気をつける点について、他の地域ブランド商品の事例などを紹介しながらの講義を行った。「今回の提案は、誰のためにするものなのか」「お金もうけになればそれでよいのか」「地域の人に愛される商品とはどんなものか」などについて考える機会となった。

その後、この講義を踏まえ、「野沢温泉村の魅力向上のためには、どのような物や取り組みが必要か」をテーマとしたグループワークを行った。このグループワークでは、「住民が参加し発信できる企画」や「一度村を訪問した人がリピーターとなるための仕掛けづくり」などの意見が挙がり、今回の提案の基礎となる考え方をまとめることができた。



提案のヒントを得ようと真剣な様子で受講



予定時間を延長して続く各グループの議論

### 学内研修②「ファシリテーションの技法」(7月29日)

グループで意見をまとめあげていくための技術を学習するため、源由理子 ガバナンス研究科教授を招き、講義を行った。この研修では、合意形成を行うための「ファシリテーターの役割」から、「場の雰囲気づくり」「意見を傾聴し、議論を活性化することでのアイデアの創発」について実習を交えながら学んだ。実習では「『野沢温泉物語』が村民に周知されるにはどのような手段が有効か」をテーマとして参加者全員によるワークショップを行った。ここでは、「村のPR戦略」「村民参加の必要性」「広報・販売等を促進するための仕組みづくり」に関する意見が挙がり、全体で「野沢温泉物語」の現状と改善点について考えを共有する機会となった。



効果的なグループワークの手法を学ぶ



参加者全員で考える「野沢温泉物語」

## 学生たちの自主研修（8月26日）

### 提案の方向性に基づくグループ再編

提案内容をより深めることを目的として、学生たちの申し出により、グループを再編した。メンバー構成は、提案の方向性が近い者同士をグルーピングして、新チームで9月の本調査を迎えることになった。各グループとも、「野沢温泉物語」の新商品提案をベースとして、「広報戦略」を考えるグループ、「制度や推進体制」を考えるグループ、「多様な観点から村の活性化」を考えるグループの3つに分かれた。

## 本調査

9月8日～11日に、村を再訪し本調査を実施。この3泊4日の本調査は、6月に行った事前調査や東京での研修で得た情報やアイデアを、さらに深化・発展させるために行った。限られた時間の中で効率的な取材を行うために、村役場の協力を得て、グループごとに綿密なスケジュールリングを行った。

### 村長との懇談会・灯籠祭り視察（9月8日）

明治大学駿河台キャンパスをバスで出発し、昼過ぎに野沢温泉村へ到着。村役場へ向かい、富井俊雄村長との懇談会を実施した。村長からは野沢温泉村の観光をより充実させていくための取り組みをはじめとして、「野沢温泉物語」誕生の経緯と狙いや今後の展開など、貴重な話を聴くことができた。

夜は、毎年9月8日に開催される灯籠祭りを視察した。学生たちは、露店や華々しく打ちあがる花火、大迫力の猿田彦の舞などを楽しみ、村独自の文化を学ぶことができた。

また、宿ではグループワークを行い、視察のふりかえりと翌日以降のスケジュール、提案内容の検討を行った。



富井村長との懇談会の様子



猿田彦の舞の迫力に圧倒された



連日深夜まで取り組んだグループワーク

### 取材・提案内容の検討（9月9日・10日）

2日目以降はグループに分かれての調査活動を実施。それぞれの提案を具体化していくため、学生たちは商店や宿泊施設などでのヒアリングやアクティビティ体験を通じて取材を行った。それらの情報を宿に持ち帰り、連日夜遅くまでグループワークに取り組んだ。

また、全員共通で把握しておくべき情報については、観光協会の森事務局長、商工会の望月会長および羽入田氏から役場の会議室で話を聴くことができた。

9月10日には、村役場をはじめ関係者の厚意で、スキー場のジップスカイライドを体験させてもらうことができた。野沢の爽やかな空気を感じながらの滑空は爽快で、野沢温泉村が誇る観光の目玉の一つを経験する貴重な機会となった。



商品提案のためおいしいものを食べ歩き



森事務局長との懇談会の様子



ジップスカイライドに挑戦



## 本調査振り返りと意見交換（9月11日）

最終日は、現地調査のふりかえりと11月の報告会に向けたまとめを行うために、村役場で各グループの進捗報告と意見交換会を実施した。各グループが2回の現地調査で学んだ成果として暫定的な提案内容の発表と、別グループからの質疑応答を行った。各グループ、提案の方向性はかたまりつつあるものの、検討すべきことは多く、村役場担当職員及び小池保夫教授からのアドバイスを受け、東京で成果報告会に向けた作業を引き続き行うことになった。



それぞれのグループで本調査の成果をふりかえり、提案の方針や内容を検討



各グループが進捗を報告し、東京で整理すべき課題を確認した

成果報告会に向け、さらなる決意を固め帰京

## 東京・明治大学での発表練習

成果発表会に向けての練習会を10月13日と10月27日に行った。この練習会には学内サポートチームも出席し、昨年度の発表会を経験してのアドバイスや、小池教授からも指導を受け、提案内容をより良くするための作業を行った。

また、今年度の提案をより一体性のあるまとまった内容とするために、発表順などの構成についても議論がなされ、明治大学生が2年間にわたり「野沢温泉物語」を考えてきた集大成となる発表を目指した。



2017年度参加者と学内サポートチームが一体となってラストスパート

## 成果報告会

### 野沢温泉村での最終成果報告会（11月2日）

本調査を終えてから約2か月、学生たちは各グループで提案内容を練り、発表練習に何度も取り組み、当日を迎えた。成果報告会の会場は野沢温泉村公民館で、富井村長をはじめとした関係者のほか、地域住民の参加も昨年以上にあった。発表は、学内サポートチームによる2016年度提案のダイジェスト版にはじまり、それらを引き継いだ提案として2017年度の参加者による提案を行った。各グループからは、村の郷土料理を活かした商品や、村のアクティビティを楽しめる宿泊付の体験型商品、温泉玉子づくりと外湯めぐりをしながら村の景観や文化を味わってもらうための商品提案に加え、昨年度の内容をより具体化した「野沢温泉物語推進委員会」の設置やSNSを活用した広報など、「野沢温泉物語」をキーワードとして、村全体の活性化に資する多様な提案がなされた。

発表後、小池保夫教授は、近年の経済活動がモノとお金の交換だけではなく、サービスや体験（コト）によって満足を生み出す商品も多数あることや、生産者がつくったものを売る「川上志向」から消費者のニーズに応じた商品をつくらなければ売れない「川下志向」にシフトしていることに触れ、今後の「野沢温泉物語」の展開に自身の見解を述べた上で、学生たちの発表を総括した。



発表前の最終ミーティング



発表会の様子



小池教授の総括



富井村長から講評を頂戴しました



最後までやりきり清々しい表情で記念撮影

富井俊雄村長をはじめ野沢温泉村役場関係者のみなさん、取材に快く応じてくださったみなさん、ご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございました！